

第53回東京消化器内視鏡看護勉強会レポート

【テーマ】 新人教育

【日時】 2022年4月23日

【会場】 五反田文化会館

【出席者】 29名

日本消化器内視鏡技師会の内視鏡看護委員会、副看護委員長、上田道子先生を講師にお迎えし、「新人・異動者における教育」～内視鏡における教育の必要性～をテーマに、講義をして頂きました。



内視鏡検査・治療におけるアウトカム(成果)とは何か？患者が安全・安楽・満足して内視鏡検査・治療を受けられるという事から始まり、新人・異動者の特性、教育に求められるもの、伝えるコツ・教えるコツ、内視鏡における安全教育、内視鏡看護委員会の活動についてお話されました。

ところどころに、ナイチンゲールの言葉を交えながら、内視鏡看護の大切さ、時には具体例を交えてわかりやすくお話くださいました。特に新人は出来なくて、当たり前。出来たことをほめる、認めていくことが大事、ということで、一番心に残ったのは、具体例として生検鉗子の取り扱いを挙げてお話しされたことです。「まずは袋を開けて、白いキャップを外して、生検鉗子を取り出す、先端を閉じて渡すのよ。」という私たちには当然の事のようにスッと処置具を出す動作が、初めて接するスタッフには、戸惑うという感覚をまさに忘れていたところだったので、心に響きました。

◆コロナ禍で二年ぶりの開催となり人数制限で少ない出席者でしたが皆熱心に聴講されていました♡



コーチングの視点から、日ごろから対話と本人の意思決定支援をし、マニュアルの活用および相手とズレを少なくする伝え方と具体的なチェックリストに基づく評価方法について学びました。

休憩をはさんで後半は指導スタイル分析を自己で評価し、どのスタイルにあてはまるのか、を知ることができました。ちなみに私は「体験的援助型」というスタイルでした。普段なかなか自分の指導について振り返る機会はないので、貴重な経験になりました。自分の指導傾向を知ることによって今後に活かせると思います。

最後に「内視鏡看護教育ガイド」についても教えて頂きました。2021年に改訂され、会場でも購入することができました。中には日本看護協会クリニカルラダーに基づく内視鏡臨床実践能力の指標について、安全教育について学びました。会場からの質問も多数あり、普段の指導やスタッフとの関わりについてそれぞれ悩みつつも、よりよい内視鏡看護を目指していこう♡と先生が会をしめくくりました。

貴重な学びの機会をありがとうございました。(文責 堀川)

